

## 俄獅子

花と見つ五町驚かぬ人もなし なれも迷うや様々に  
四季折々の戯れは 紋日物日のかけ言葉 蝶や胡蝶の禿俄の 浮かれ獅子  
見返れば花の屋台に見えつ隠れつ色々の 姿やさしき仲の町  
心づくしのなその玉章もいつか渡さん袖の中 心一つに思い草よしや世の中  
狂い乱るる女獅子男獅子の あなたへひらりこなたへひらりひらひらひら  
忍ぶの峰かかさね夜具 枕の岩間瀧つ瀬の 酒に乱れて足もたまらず  
よその見る目も白浪や やあ秋の最中の月は竹村 更けて逢うのが間夫の客  
よいよい辻占見事繰り返し なぜこのように忘れぬ恥ずかしい程愚痴になる  
というちゃ無理酒に 何でもこっちの待人 恋のナ 恋の山屋が豆腐に銚  
しまりのないのでぬらくらふはつく嘘ばかり よいよいよいやな  
宵から待たせて又行こうとは ええあんまりなと腹立直し締めろやれ  
たんだ打てや打て 打つは太鼓が取持顔か すねて裏向く水道尻に  
お神楽蕎麦なら少し延びたと囃されて ちんちん鴨の床の内  
たんたん狸の空寝入り 抓った跡のゆかりの色に 打って変わった仲直り  
あれわさこれわさ よい声かけや よいやな しどもなや  
人目忍ぶは裏茶屋に 為になるのを振り捨てて 深く沈みし恋の淵  
心からなる身の憂さは いっそ辛いじゃないかいな 逢わぬ昔が懐かしや

獅子に添いてや戯れ遊ぶ 浮き立つ色の群がりて

夕日花咲く廓景色 目前と貴賤現なり

しばらく待たせ給えや 宵の約束今行く程に 夜も更けし

獅子団乱でんの舞樂もかくや 勇む末社の花に戯れ 酒に臥し

大金散らす君達の 打てや大門全盛の 高金の奇特あらわれて

靡かぬ草木もなき時なれや 千秋万歳万々歳と 豊かに祝す獅子頭